



## 子宮頸がんについて

- ✓ わが国では女性のがんの中でも罹患する人が多く、特に 30～50 歳代で多いがんです。
- ✓ 子宮頸がん検診で早期に発見して治療することにより、子宮頸がんで亡くなることを防ぐことができます。また、前がん状態も見つけることにより、子宮頸がんの罹患・死亡を防ぐことができます。検診は自覚症状がないうちに受けることが大事です。
- ✓ 子宮頸がん検診は 20 歳になったら 2 年に 1 度、子宮頸部の細胞診を繰り返し受けてください。ただし、月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は、子宮体がんなどほかの病気のこともあります。次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ✓ 子宮頸がん検診には利益（子宮頸がんで亡くなることを防ぐ）と不利益（偽陰性、偽陽性など）があります。偽陰性とは実際にはがんがあるのに見つけれないこと、偽陽性とは実際にはがんでないのに「要精密検査」と判定されることです。利益が不利益を上回るように受けることが大事です。このリーフレットでご案内した検診方法（受診年齢、受診間隔、検査項目）は、検診の利益が不利益を上回ることが科学的に認められています。
- ✓ 子宮頸がん検診で「要精密検査」となった場合は子宮頸がんの疑いがありますので、必ず精密検査を受けてください。
- ✓ 精密検査はコルポスコープ下の組織診・細胞診・HPV 検査などを組み合わせて行います。

子宮頸がん検診(細胞診)  
をこれから受ける方、  
受けた方へ

「子宮頸がん」「がん検診」などのがんの情報についてもっと詳しく知りたい方に、国立がん研究センターのがん情報サービスは、わかりやすく確かな情報をお届けしています。

国立がん研究センター  
がん情報サービス [ganjoho.jp](https://ganjoho.jp)



国立がん研究センターは、皆さまからのご寄付で「確かな・わかりやすい・役立つ」がん情報をつくり、全国の図書館などにお届けするキャンペーンを行っています。ぜひご協力ください。

尼崎市保健所 健康増進課  
〒660-0052  
尼崎市七松町1丁目3番1-502号  
フェスタ立花南館5階  
TEL 06-4869-3033  
FAX 06-4869-3049

発行：国立がん研究センターがん対策研究所 2024 年 4 月  
協力：厚生労働行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班  
国立がん研究センター研究開発費「働く世代におけるがん検診の適切な情報提供に関する研究」班

※<市区町村の住民検診を受けられた方へ>  
がん検診の精度管理のため、精密検査の結果は市区町村へ報告されます。また最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。



## 子宮頸がん検診を受ける前に 知っておくこと

子宮頸がんは罹患する人（かかる人）がわが国の女性の  
のがんの中でも比較的多く、また 30～50 歳代で多  
いがんです。国が推奨している子宮頸がん検診（子宮  
頸部の細胞診）は「死亡率、罹患率を減少させること  
が科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、  
治療で大切な命を守るために、20 歳以上の女性は 2  
年に 1 度繰り返し検診を受診し、「要精密検査」とい  
う結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるよ  
うにしてください。

すべての検診には「不利益」があります。がんは発生  
してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、  
検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのが  
んががん検診で見つかるわけではありません。また、  
がんでなくても「要精密検査」と判定されることもあ  
ります。子宮頸がんは前がん病変も検診で見つけられ  
るのですが、この中には放置しても治療してしまうもの  
も多いために、結果的に不必要な精密検査や治療を  
受けなければならない場合もあります。さらに、検査  
によって出血などが起こることがあります。

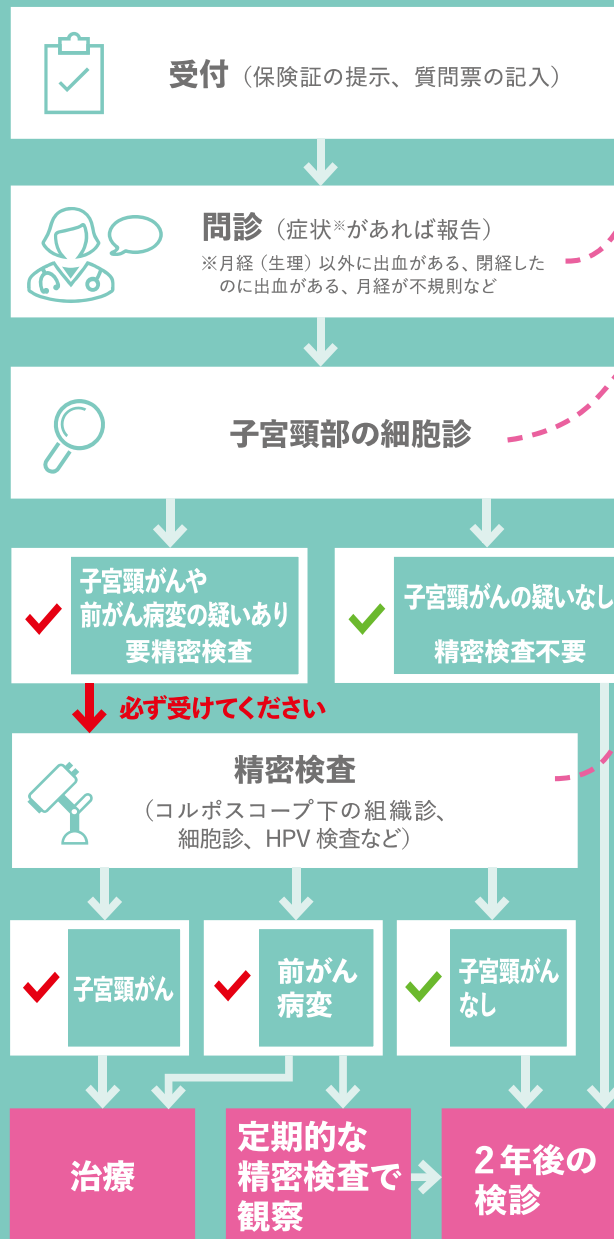
がん検診の利益（がんで亡くなることを防ぐ）と不利  
益のバランスの観点から、このリーフレットにある受診  
年齢、受診間隔、検査項目を守りましょう。

詳細はこちらをご覧ください。

[https://ganjoho.jp/public/pre\\_scr/screening/about\\_scr01.html](https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/about_scr01.html)



## 子宮頸がん検診の流れ



前がん病変が見つかった時には、状態によって治療を行う  
場合もありますし、治療をせずに医療機関で定期的に経  
過観察になる場合もあります。

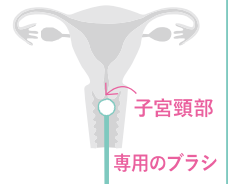
### 気になる症状がある場合

月経（生理）以外に出血がある、閉経したのに出血がある、  
月経が不規則など、気になる症状がある場合は問診の際に  
医師に必ずお伝えください。不正出血が疑われる症状があ  
る場合は子宮頸がん検診を待たず、すぐに婦人科を受診し  
てください。また、現在婦人科で治療中や経過観察中の方は、  
がん検診を受けられない場合がありますので、主治医にご  
相談ください。

### 子宮頸部の細胞診

子宮頸がん検診は子宮頸部（子宮の入り  
口）を、先にブラシのついた専用の  
器具で擦って細胞を取り、がん細胞な  
ど異常な細胞がないかを顕微鏡で調  
べる検査です。

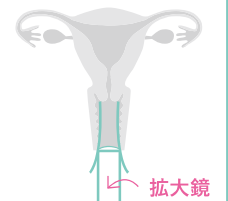
\*月経（生理）中は避けて検査を受けてください。



子宮頸部をブラシで  
擦り、細胞を取って  
顕微鏡で見る

### 精密検査はコルポスコープ下の組織診、 細胞診、HPV 検査の組み合わせ

細胞診で異常が発見されたらコルポス  
コープ（腔拡大鏡）を使って子宮頸部を  
詳しく見ます。異常な部位が見つれば、  
組織を一部採取してがんや前がん病変  
がないかを診断します。また、細胞診の  
結果によっては HPV 検査を行い（子宮  
頸がんを引き起こすウイルスの有無を調  
べます）、コルポスコープ検査が必要か  
どうかを判断することもあります。



子宮頸部を  
拡大鏡で見る

### 20歳以上になってから、2年に1回、細胞診を繰り返し受け ることで、子宮頸がんで亡くなることを防ぐことができます

子宮頸がんの中には急速に進行するがんもあります。早期  
発見のために必ず 2 年に 1 度、くりかえし検診を受けてくだ  
さい。検診は受けすぎると不利益が大きくなりますので、推  
奨された年齢と間隔を守りましょう。